



福島原発事故への対応を求め、市長に申し入れ 市内の学校・公園で放射線測定を、給食の安全チェックを

福島第一原発事故は4ヶ月以上が経過した今も収束の見通しが立たず、牛肉にみられるように放射能汚染は日本中に拡大。食糧や健康への不安が広がっています。日本共産党江南市議員団にも、市民から不安や要望が寄せられています。

7月28日(木)、党議員団は江南市長に対し「脱原発と自然エネルギーへの転換」を呼びかけた日本共産党の提言を手渡し、同時に、市民の不安に応え健康と安全を守るため最善の対策をとるよう求める要望書(下欄参照)を提出。石川副市長や森生活産業部長などと懇談しました。

副市長は、「江南市として学校や公園等の放射線量の独自

調査は難しいが、愛知県の測定値(名古屋市北区内)や岐阜県の測定値(各務原市内)の把握に努めている。給食の安全チェックについては改めて指示する。被災地からの瓦礫の焼却受け入れについては、江南丹羽環境美化センター焼却炉が流動床炉で、対応できる機能がないことから、今後も実質的に無理ではないか」と述べました。

申し入れを受け、市が対策はかる

なお党議員団の申し入れの後、市は県に対し放射線量の測定地点を増やすよう要望。各務原市内の測定値も江南市HPトップから直ちに見られるよう改善されました。

要望事項

- ① 「脱原発・自然エネルギーへの転換」の立場を明確にし、浜岡原発の永久停止・廃炉を求めること。
- ② 市民の食生活や健康、くらしの安全を守るため、国の指示待ちではなく、積極的な対応をすること。
- ③ 学校や保育園、公園などの大気中や土壌の放射線量を独自に測定し、公表すること。
- ④ 学校給食の食材の事前チェックなど安全対策を確保すること。
- ⑤ 愛知県に対し、モニタリングポストを増やすよう強く要望を。
- ⑥ 震災被災地の瓦礫の受け入れについて、江南丹羽環境美化センターでは受け入れできないと回答したとのことだが、放射能汚染やアスベストによる被害も予想されることから、より慎重を期すること。



浜岡原発廃炉を求める集会に参加

7月23日(日)静岡市駿府公園で「浜岡原発の永久停止・廃炉を求める静岡県集会」が開かれ、江南市からは3人の日本共産党議員団など16人が参加しました。

集会では、湖西市長をはじめ日本共産党の志位委員長、福島の農民代表などが次々とあいさつ。福島の代表は、汚された福島を美しい福島に戻すために農民として頑張りぬく覚悟だと訴え、ノーモア・フクシマと結びました。

集会宣言は、「浜岡原発50キロ圏内には214万人が暮らしており、東海道メガロポリスの真ん中に位置する浜岡原発で事故が起きれば被害の甚大さ、深刻さははかり知れません。被災地、避難地でがんばる東北の人たちと心を通わせながら、浜岡原発の永久停止・廃炉への思いを周りに広げ、年内には浜岡に集まりま



しょう」と呼びかけました。

集会には5000人が集まり、様々な趣向を凝らした「脱原発」「浜岡廃炉」のゼッケンや傘、ひまわりを身につけ市内を3コースに分かれて、「なくそう浜岡原発」「ふやそう自然エネルギー」「守ろう人間の暮らし」とアピールしながら行進しました。



市民の声

長年壊れたまま(市民プール男子更衣室ロッカー)

市民の方から「多数が壊れたまま、いつまで経っても修理されない。教育上もよくない。何とかして!」と声。早速、教育部長に写真を見せ、現場確認を求めました。

老人福祉センターの風呂場の脱衣棚カギが付きました

森議員が6月議会で取り上げた、老人福祉センター風呂場の脱衣棚に、鍵が付けられました。安心してお風呂に入れます!